

社会資本総合整備計画 防災・安全交付金

令和06年01月16日

計画の名称	安全・安心で賑わいを創出する交通拠点整備（防災・安全）												
計画の期間	令和06年度 ~ 令和08年度（3年間）								重点配分対象の該当	○			
交付対象	松山市												
計画の目標	松山市駅前広場において、路面電車の電停を郊外電車の駅に近接化させ、バス乗降場を広場東側に集約し、公共交通の利用を促進すると共に、安全・安心で賑わいを創出する歩行空間の整備を行い、歩いて暮らせるまちづくりの実現を目指す。 また、災害時には、市民の一時的な避難場所として広場を活用することにより、防災対策強化を図る。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	2,880	A	2,877	B	0	C	3	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0.1	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (R6当初)	中間目標値	最終目標値 (R8末)
1	路面電車の乗降客数の増加 路面電車の乗降客数の変化を把握する。 路面電車の総乗降客データ（人/日）	30600人/日	人/日	40200人/日
2	放置自転車数の減少 松山市駅周辺の放置自転車数の変化を把握する。 放置自転車カウント調査のデータ（台）	360台	台	36台
3	交通事故発生件数の縮減 松山市駅周辺の交通事故発生件数の縮減 (最終目標年の交通事故発生件数 / 当初現況年の交通事故発生件数) × 100 (%)	100%	%	87%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	○	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												R06	R07	R08	R09	R10				
一体的に実施することにより期待される効果																				
備考																				
市街地整備事業	A13-001	都市交通	一般	松山市	直接	松山市	-	-	都市・地域交通戦略推進 事業((都)花園町線(松山市駅前広場))	駅前広場の整備 A = 1ha	松山市						1,597	1.14	-	
	本事業は、3基幹事業を一体的に実施するものであるため、費用便益比は3事業全体で算出したものである。																			
	A13-002	都市交通	一般	松山市	直接	松山市	-	-	都市・地域交通戦略推進 事業(自転車駐車場)	自転車駐車場 N= 1箇所	松山市							209	1.14	-
	本事業は、3基幹事業を一体的に実施するものであるため、費用便益比は3事業全体で算出したものである。																			
	A13-003	都市交通	一般	松山市	間接	伊予鉄道(株)	-	-	都市・地域交通戦略推進 事業(軌道施設、電停施設)	路面電車の移設 L=130m	松山市							1,071	1.14	-
	本事業は、3基幹事業を一体的に実施するものであるため、費用便益比は3事業全体で算出したものである。																			
											小計							2,877		
											合計							2,877		

C 効果促進事業																			
基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												R06	R07	R08	R09	R10			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
市街地整備事業	C13-001	都市交通	一般	松山市	間接	伊予鉄バス 株	-	-	公共交通体験学習	小学校での公共交通体験学習	松山市						3	-	
松山市駅前広場の整備と連動し、公共交通の利用体験を通じて利用促進を図ることができる。																			
											小計						3		
											合計						3		

防災・安全交付金の執行状況

【21章】安全・安心で賑わいを創出する交通拠点整備（防災・安全）

（単位：百万円）

	R6	R7	R8
配分額 (a)	598		
計画別流用増減額 (b)	0		
交付額 (c=a+b)	598		
前年度からの繰越額 (d)	0		
支払済額 (e)	239		
翌年度繰越額 (f)	359		
うち未契約繰越額 (g)	7		
不用額 (h=c+d-e-f)	0		
未契約繰越率+不用率 (i=(g+h)/(c+d)) %	1.20		
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由			

事前評価チェックシート

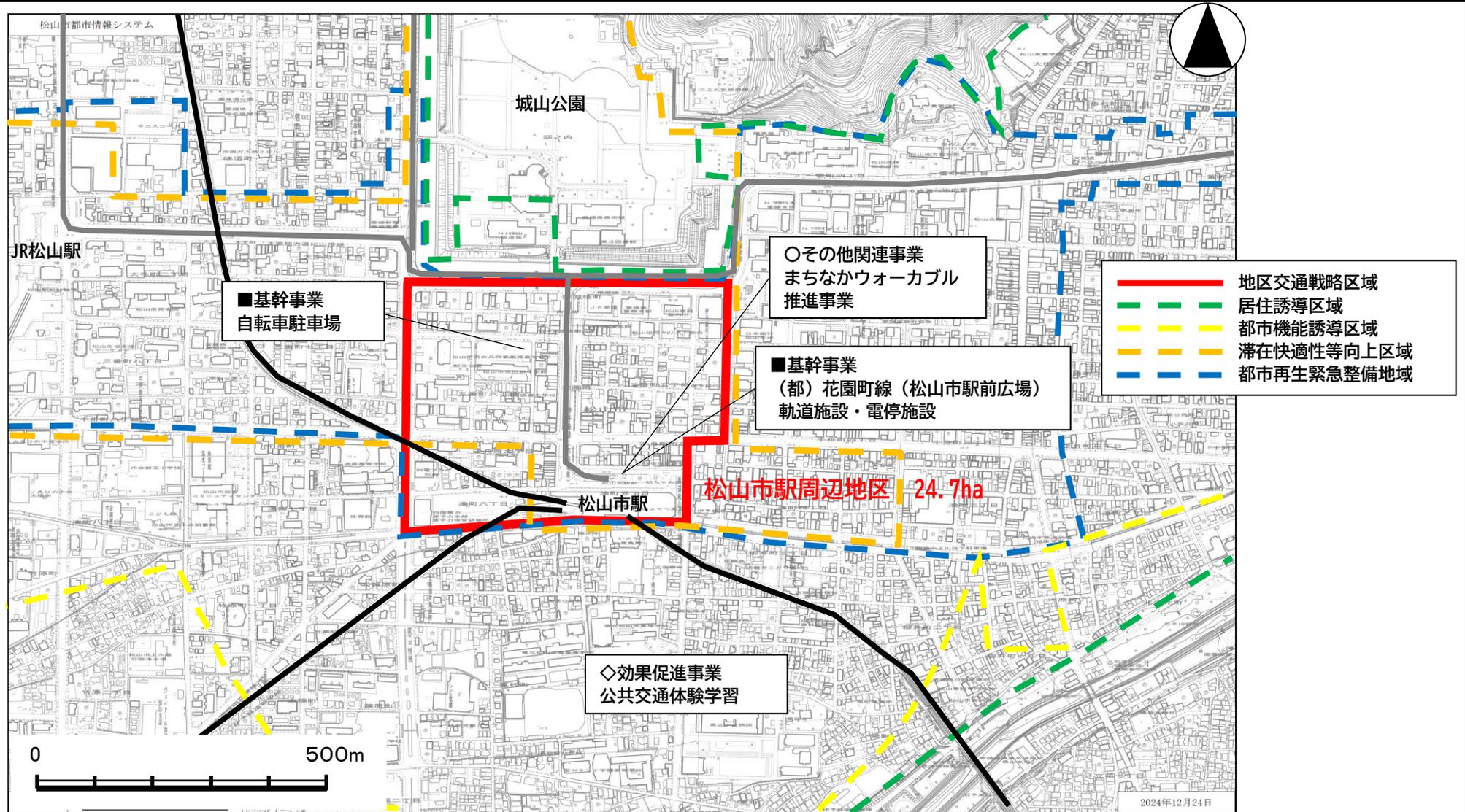
計画の名称： 安全・安心で賑わいを創出する交通拠点整備（防災・安全）

事 前 評 価	チェック欄
I. 目標の妥当性 都市再生基本方針との適合等 1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
I. 目標の妥当性 都市再生基本方針との適合等 2) 上位計画等と整合性が確保されている。	○
I. 目標の妥当性 地域の課題への対応 1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
I. 目標の妥当性 地域の課題への対応 2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
II. 計画の効果・効率性 事業の効果 1) 十分な事業効果が確認されている。	○
II. 計画の効果・効率性 事業の効果 2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性 地元の熱意 1) まちづくりに向けた機運がある。	○
III. 計画の実現可能性 地元の熱意 2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
III. 計画の実現可能性 地元の熱意 3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
III. 計画の実現可能性 円滑な事業執行の環境 1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○

様式2-A-4 整備計画概要図

◆事業概要： 松山市駅前広場において、路面電車の電停を郊外電車の駅に近接化させ、バス乗降場を広場東側に集約し、公共交通の利用を促進すると共に、安全・安心で賑わいを創出する歩行空間の整備を行い、歩いて暮らせるまちづくりの実現を目指す。また、災害時には、市民の一時的な避難場所として広場を活用することにより、防災対策強化を図る。

◆事業主体：松山市 ◆地区名：松山市駅周辺地区 ◆地区面積：24.7ha ◆事業期間：R6～R8
 ◆全体事業費：3,979.1百万円 ◆交付対象事業費：2,880.1百万円（国費1,439.6百万円） ◆補助率：50%

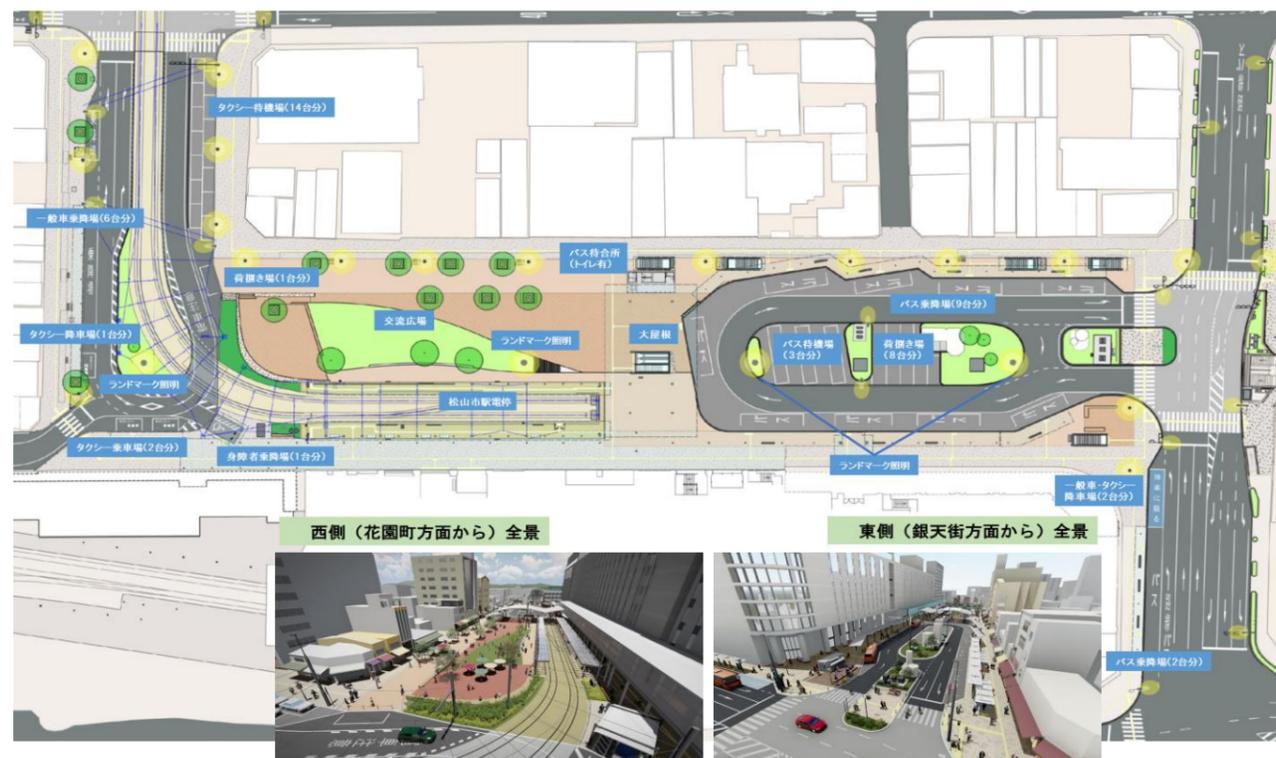


様式2-D-2-2 交付対象事業ごとの事業概要 【ロ 公共的空間等の整備に関する事業 - (2) 公共的空間の整備】

金額の単位は百万円

事業種別	対象事業	事業箇所/施設名	事業主体	規模	全体事業期間				整備計画期間内事業期間				補助率	費用便益比B/C
					開始年度	終了年度	全体事業費	うち国費	開始年度	終了年度	交付対象事業費	うち国費		
ロ 公共的空間等の整備に関する事業	(2) 公共的空間の整備	湊町5丁目、花園町／(都)花園町線(松山市駅前広場)	松山市	駅前広場の整備 A=1ha	R6	R8	1,596.7	798.35	R6	R8	1596.7	798.35	0.5	1.14
事業内容		事業の目的/事業によって解決される課題							事業要件 (なし)					
松山市駅前広場の歩道舗装、車道舗装、照明施設、大屋根、バス待合所、バス・タクシー・一般車の乗降場の上屋、交流広場等の整備を行う。		安全・安心で快適な歩行空間の形成や賑わい・憩いの空間の創出、公共交通の利用促進などを目的に、1日約3万人が利用し、市内最大の交通結節点である松山市駅の空間改変を実施する。また、災害時には、市民の一時的な避難場所として広場を活用する。							支援対象(下記の中から当てはまるものに○)					
									施設の種類の種類 (以下から選択) 歩行者通路、広場、人工地盤、公開空地等の整備及び駅舎の地域拠点施設への改修や減築					
									広場		(1) 設計費		① 地盤等調査費	
													② 基本設計費	
													③ 実施設計費	
									○		(2) 施設整備費		① 建設費	
													② 購入費 ※地方公共団体が取得する場合に限る。	

整備内容イメージ



完成イメージ図

様式2-D-2-8 交付対象事業ごとの事業概要 【ロ 公共的空間等の整備に関する事業 - (8) 自転車駐車場の整備】

金額の単位は百万円

事業種別	対象事業	事業箇所/施設名	事業主体	規模	全体事業期間				整備計画期間内事業期間				補助率	費用便益比B/C
					開始年度	終了年度	全体事業費	うち国費	開始年度	終了年度	交付対象事業費	うち国費		
ロ 公共的空間等の整備に関する事業	(8) 自転車駐車場の整備	三番町6丁目/自転車駐車場	松山市	N=1箇所 (430台)	R7	R7	209	104.5	R7	R7	209	104.5	0.5	1.14
事業内容			事業の目的/事業によって解決される課題						事業要件 (下記の中から当てはまるものに○) ※要件を満たしていることがわかる参考資料を添付すること					
既存の自転車駐車場を2階建てに増設し、約430台分の自転車駐車場を整備する。			松山市駅前広場には、平日で約450台、休日に約610台の放置自転車があるため、市駅前広場の整備に合わせ、周辺に自転車駐車場を整備することで、安全・安心で快適な歩行空間を確保する。						○		自転車駐車場(駐車台数200台以上(整備計画に位置づけられ、複数箇所ネットワークを形成している場合は合計で200台以上)(シェアリングポートを含めてエリア全体で一体的に整備する場合を除く。))の駐車施設の整備			
											立地適正化計画、都市・地域総合交通戦略(ただし、国土交通大臣の認定を受けているものに限る。)及び利便増進実施計画に位置付けられた地域公共交通利便増進事業に係る停留所等に設置する自転車駐車場は、50台以上(複数箇所設置の場合は合計で50台以上)の駐車施設の整備			
									支援対象(下記の中から当てはまるものに○)					
											(1) 設計費		① 基本設計費	
											(2) 施設整備費		② 実施設計費	
									○					

整備内容イメージ



自転車駐車場イメージ

様式2-D-2-12 交付対象事業ごとの事業概要 【ロ 公共的空間等の整備に関する事業 - (12) LRT・BRT・路面電車・バス等の公共交通に関する施設の整備】

金額の単位は百万円

事業種別	対象事業	事業箇所/施設名	事業主体	規模	全体事業期間				整備計画期間内事業期間				補助率	費用便益比B/C		
					開始年度	終了年度	全体事業費	うち国費	開始年度	終了年度	交付対象事業費	うち国費				
ロ 公共的空間等の整備に関する事業	(12) LRT・BRT・路面電車・バス等の公共交通に関する施設の整備	湊町5丁目、花園町/軌道施設、電停施設 (松山市駅)	松山市	路面電車の移設 L=130m	R6	R6	1071.7	535.85	R6	R6	1071.7	535.85	0.5	1.14		
事業内容			事業の目的/事業によって解決される課題						事業要件 (下記の中から当てはまるものに○) ※要件を満たしていることがわかる参考資料を添付すること							
路面電車の軌道 (L=130m) 及び電停 (N=1箇所) の移設を行う。			松山市駅前広場整備に併せて、路面電車の電停を郊外電車の駅に近接化させ、公共交通の利便性向上を図る。						都市・地域総合交通戦略に位置付けられている							
									○ 立地適正化計画等に都市の骨格となる基幹的な公共交通軸として即地的かつ具体的に位置づけられている							
									必須 事業に必要な特許等を受けている又は受けることが確実							
									施設の種類の種類 (以下から選択)		支援対象 (下記の中から当てはまるものに○)					
									路面電車		停留所		(1) 設計費		① 基本設計費	
											軌道・架線		(2) 施設整備費		② 実施設計費	
											○		(2) 施設整備費		立地適正化計画、都市・地域総合交通戦略(国土交通大臣の認定を受けているものに限る。)及び利便増進実施計画に位置付けた地域公共交通利便増進事業に係るもの限り、停留所の整備に要する費用に民間建築物との合築や民間施設の一部を購入する費用を含む	

整備内容イメージ



安全・安心で賑わいを創出する交通拠点整備（防災・安全）

松山市：（松山市駅周辺地区）

1. 概要

松山市駅は、郊外電車や路面電車、路線バスが乗り入れる、本市最大の交通結節点であるが、通過交通の流入による歩行者動線の遮断、路線バスとタクシー及び一般車動線の輻輳、放置自転車や自転車交通による危険な歩行環境、広場空間の不足などの課題を抱えている。

そこで、立地適正化計画に位置付けられた市駅前広場のサービス水準向上として、路面電車の電停を郊外電車の駅に近接化させ、バス乗降場を東側に集約し、公共交通の利用を促進すると共に、安全・安心で賑わいを創出する歩行空間の整備を行い、歩いて暮らせるまちづくりの実現を目指す。

また、災害時には、市民の一時的な避難場所として広場を活用することにより、防災対策強化を図る。

令和6年度は、広場整備や路面電車の軌道移設、公共交通体験学習を実施。令和7年度は、広場整備や自転車駐車場整備、公共交通体験学習を予定している。

2. 計画内容

事業主体：松山市

事業内容：松山市駅前広場整備、路面電車の軌道移設、自転車駐車場整備（防安1/2）

所在地：えひめけんまつやましみなとまち ちょうめほか 愛媛県松山市湊町5丁目外

延長等：A ≒ 1ha（松山市駅前広場）

事業期間：令和6年度～令和8年度

全体事業費(A)：C = 約 28.8 億円（R6末予定進捗率 41.5%）
（内 国費 14.4 億円、市 14.4 億円）

R7 事業費(A)：C = 16.0 億円（内国費 8.0 億円）

R8以降残事業費(A)：C = 約 0.8 億円（内国費 0.4 億円）

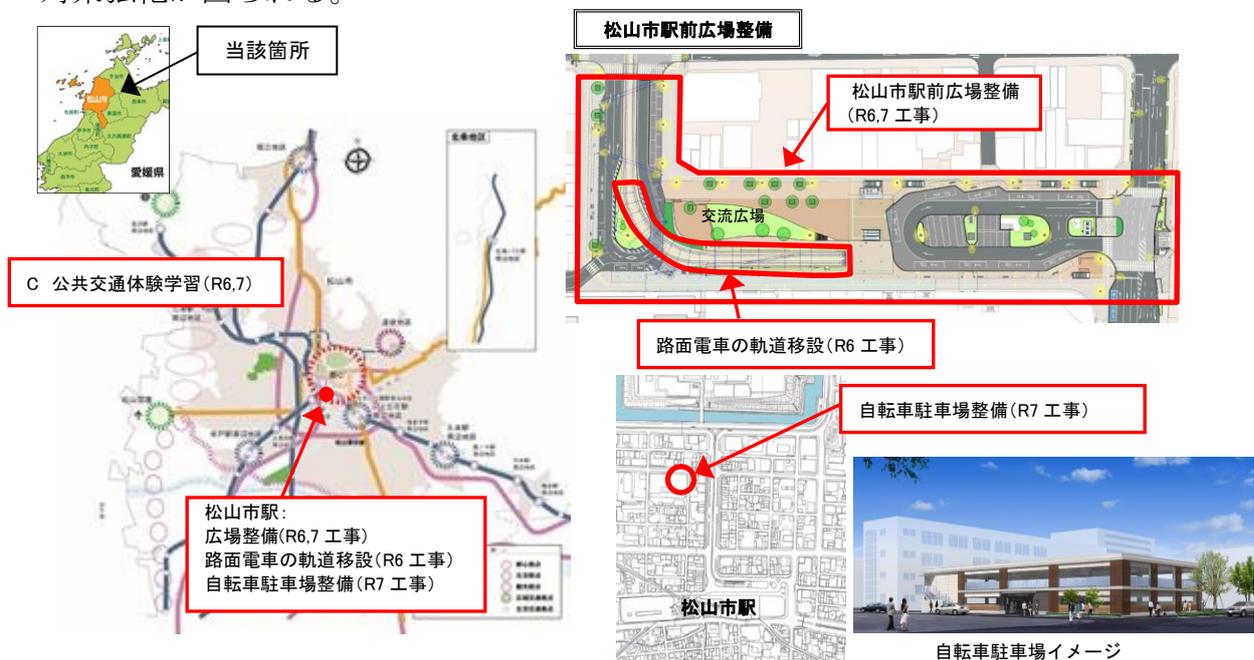
供用予定：令和8年度（公表可 or 不可）

全体事業費(ABC)：C = 約 28.8 億円
（内 国費 14.4 億円、市 14.4 億円、民 0.01 億円）

R7 事業費(ABC)：C = 約 16.0 億円
（内 国費 8.0 億円、市 8.0 億円、民 0.003 億円）

3. 整備効果

駅前広場整備により、公共交通の利便性や安全・安心な賑わい空間の創出、防災対策強化が図られる。



【概要】松山市駅は、郊外電車や路面電車、路線バスが乗り入れる、本市最大の交通結節点であるが、通過交通の流入による歩行者動線の遮断と交通渋滞、路線バスとタクシー及び一般車の輻輳、放置自転車や自転車交通による危険な歩行環境、広場空間の不足などの課題を抱えている。そこで、路面電車の電停を郊外電車に近接化させ、バス乗降場を広場東側に集約し、公共交通の利用を促進すると共に、安全・安心で賑わいを創出する歩行空間の整備を行い、歩いて暮らせるまちづくりの実現を目指す。

また、災害時の帰宅困難者対策として、一次滞在施設となる広場空間の確保により、防災対策強化を図る。

松山市位置図



計画内容

事業主体：松山市
 事業期間：令和6年度～令和8年度
 事業内容：松山市駅前広場整備
 全体事業費：C = 28.8億円
 令和7年度事業費：C = 16.0億円
 令和7年度実施内容：広場整備
 自転車駐車場

写真等



松山市駅前広場の施設配置図

整備前



【課題】

- 多くの車両通過交通や放置自転車が存在
- 路面電車と郊外電車（松山市駅）との乗り継ぎには車道横断が必要
- 路線バスとタクシー・一般車の輻輳

整備後



【整備効果】

- 歩行者優先の広場空間の創出（一次滞在施設としての活用）
- 路面電車と郊外電車の近接化による車道横断の解消
- バスロータリー整備等による公共交通の利用促進